

ほしをさがしに



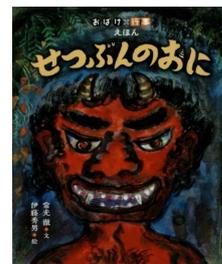
しもかわらゆみ／作・絵
講談社
Eほ

ていがくねんむ
低学年向け

あるひ、ねずみはながれほしをみてなかよしのものぐらのことをおもいました。あたたかいころはいつもふたりであそんでいたのに、ゆきがふってからずっとあっていません。そこでねずみは、ねがいをかなえてもらおうとおちてきたほしをみつけにでかけます。

ほしはみつかるのでしょうか？

せつぶんのおに



常光徹／文
伊藤秀男／絵
童心社
Eせ

むかし、「ふく」というなまえのむすめが、りょうしんとくらししていました。ふくは、きりょうよしではたらきものです。りょうしんは、村一ばんのむこどのをむかえたいと、「うらやまの^{おおし}大石をにわまでもってきたものをふくのむこにとる」とかかれたふだをたて、^{ちから}おおくの力じまんがやってきますが・・・

富士山うたごよみ



倭万智／短歌・文
U.G.サトー／絵
福音館書店
E大ふ

ちゅうがくねんむ
中学年向け

この本は、立春(今年は2月4日)から始まる季節の短歌絵本です。どの短歌にも、より情景が浮かぶような文章がそえられ、それに合わせた表情・色彩豊かな富士山の絵が描かれています。文章でも絵でも楽しめます。きっと好きな短歌、好きな富士山の絵がみつかりますよ！

町にきたヘラジカ



フィル・ストング／作
クルト・ヴィーゼ／絵
瀬田貞二／訳
徳間書店
933／ｽﾌ

なかよしのワイノとイパールはミネソタ州ピロラに住んでいます。これまでにないくらい寒い冬のある日、とてもおなかをすかせたヘラジカのボーンが二人の住む町にまよいこんできました。ボーンは、イパールの家の馬小屋でほしく草を食べ続け、眠りこんでしまいました。

きつねの橋



久保田香里／作
佐竹美保／絵
偕成社
913／クカ

こうがくねんむ
高学年向け

この物語は、京の都、時代は平安時代のお話です。元服をすませたばかりの15歳の平貞道は、主にみとめられ名をあげるため、相模の国(現在の神奈川県)から京の源頼光の家来としてその屋敷に住んでいました。高陽川の橋の上で、きつねが人を化かすとの話を聞いた貞道は、きつねをとらえようと、京のはずれ高陽川の橋をめざします。

ロドリゴ・ラウバインと従者クニルプス



ミハエル・エンデ／作
ヴィーラント・フロイント／作
木本栄／訳
junaida／絵
小学館
943／エミ

暗黒の中世のまっただなかの、1週間のまんなかの水曜日の真夜中、人形劇団の馬車が嵐の森の中を進んでいきます。馬車の中には、パパフトッチョ、ママフトッチョ、そしてその息子クニルプス、おうむのソクラテスが乗っていました。そんな中、クニルプスが姿を消してしまいます。クニルプスは、盗賊騎士ロドリゴ・ラウバインに会いに行こうとしていたのです。